

## かわさき区の宝物シート

宝物No.
14-4

### しりつとのまちしょうがっこうきょうどしりょうしつ 市立殿町小学校海苔・郷土資料室



エリア	大師地区	シーズン	通年
	殿町	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区殿町1-17-19
問い合わせ	殿町小学校
TEL	044-266-4886
FAX	044-287-4053
E-mail	
URL	
交通	京急大師線小島新田駅より徒歩5分 川崎駅よりバス「殿町小学校前」下車すぐ



#### 基礎情報

■殿町小学校内には、海苔生産の道具などを展示する海苔資料室（4階）と、たんすなど大正期の市民の生活を伝える生活道具など保存した郷土資料室（2階）が常設されている。海苔資料室には、かつての地場産業の記憶を残すため、大正期の大師河原村の様子を伝える「べか舟」や海苔養殖を伝える道具類などが多数展示されている。また、海苔づくりの体験教室を4年生の児童を対象に年に一度行っている。

■見学は電話での事前申込が必要。

#### 由来・エピソード

■多摩川河口から鶴見川河口にいたる川崎の遠浅の海は、海苔と貝類の良質な養殖場として発展してきた。多摩川からの淡水の微妙な混じり具合が「大師海苔」の風味を生んだといわれている。明治4年（1871）、大師河原の住民が国へ海面使用権を申請し認められた海苔養殖は、海苔は水温が低い冬季に生育することから農閑期の副業として開始された。次第に本業へと転換し大正10年（1921）頃には組合員500戸、1700人ももの地方からの出稼ぎ漁師を抱える一大産業となる。やがて川崎の工業都市化にともない埋立地の増加や水質悪化から次第に海苔養殖は衰退に向かい、昭和46年（1971）には漁業権を放棄、海苔養殖は終焉を迎えた。

■展示されている主な道具  
海苔取り機/海苔裁断機・ノリノツメ/扇風機の羽根・ダルマストーブ/スダイ/ロクロ./ツキボウチョウ/ウミゲタ/ポータ・モモヒキ/ノリス洗い機/ベカブネ・カイ/自動海苔付け機/アカケエ/アバリ・メイタ/コンパス・航海灯/タケキリ・ツナグリ・セーオートシ/タテマンリキのマクラ/テッキンジメ・ツバノミ・ナタ/ナガシダイ・ノリス・シトダル/ノリゲタ/フリボウ・カイ・長柄ヒシヤク/マルザル・アライザル・カケゴ/ヤキイン・ナフダ/竹ヒビ・サンボンツメ/ポンプ・ウィンチ/唐箕/足踏み脱穀機/蛇腹など

#### 補足・その他

■川崎大師平間寺境内には、大正9年（1920）に行われた大師海苔50周年記念の「のり供養祭」の記念碑が建っている。

#### 関連シート

- (8-1) 田島郷土資料館(市立田島小学校)
- (10-3) 若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (10-17) 川崎大師平間寺
- (19-1) 「川崎漁業ゆかりの地」碑
- (19-3) 川崎の海苔づくり資料室